

教育支援課 相談担当 巡回相談チーム

ほっと通信

平成28年2月1日 第26号

発行：八王子市教育委員会

教育支援課 相談担当 巡回相談チーム

八王子市散田町2-37-1 Tel.664-1615

(八王子市教育センター内)



日頃より巡回相談チームの活動にご協力いただき、ありがとうございます。

今年度のこれまでの巡回相談を振り返ると、小学1年生に関するケースのご依頼を多くいただいています。子どもたちにとって入学後の早い時期からの支援が学校生活を過ごす上での支えになることを願っております。

今年度も残り2ヶ月となりますが、来年度に繋がるような支援を一緒に考えていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。



ちょっとした〇〇でなにかが変わる？ パート2

今回は、漢字の読み書きの練習のアイデアとして役立つようなものをいくつか取り上げてみました。我々も日々の巡回相談の中で、なかなか漢字が覚えられない、すぐに間違ってしまう…など、“漢字の読み書きが苦手”というお子さんに出会うことも多くあります。

そんなとき、“とにかく練習！”と練習回数を増やすことも一つの方法かもしれませんが、しかしながら、漢字は【かたちを覚えること】だけでなく、【意味】や【音】と結びつけながら覚えていくことが必要です。もしも、書く練習だけではなんだか上手くないかな…と感じるときには、ちょっと立ち止まって、違ったやりかたを試してみるのはいかがでしょうか。

学級を訪問させていただく中では、先生方が学級で実践されている様々な工夫を見せていただくこともできました。前回と今回の“ちょっとした〇〇”をその工夫のひとつとして役立てていただければ幸いです。



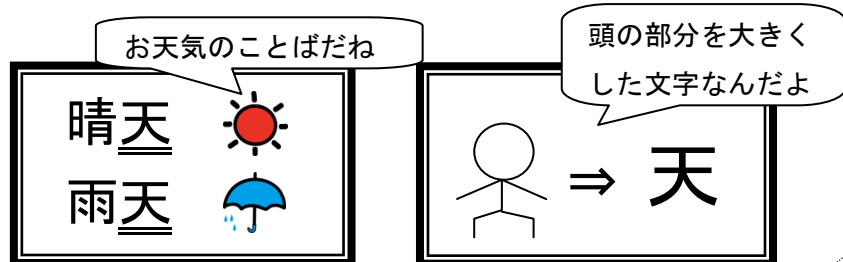
漢字の読み書きに役立つ ちょっとした00

- よく見られる間違いに合わせて、考えられる練習のアイデアをいくつか挙げてみました。
- 一つのやりかたにこだわるのではなく、こうしたアイデアを取り入れながらひとりひとりに合ったやりかたを見つけていっててください。最近取り上げられるようになった“合理的配慮”という考えかたはまさにこのことだと思います。
- なかには感じ方・学び方の特徴によってより一層困難さを抱えている子どもたちもいます（裏面も参考にしてください）。そうした場合は専門の機関のアドバイスなどを上手く利用して、より丁寧に考えることも手助けになるかと思います。

絵やイメージを付けて

【同じ音で間違いやすいときに】

- * 同じ音の違う漢字を書いてしまいやすい（例：せいてん⇒晴点）ときには、漢字の“意味”の理解が十分でないのかもしれません。
- * 絵を描いたり、漢字の成り立ちを添えたりして、文字の意味を掴みやすくすると良いでしょう。



ゴロ合わせ

【練習してもなかなか定着しにくいときに】

- * 覚える際に“かたち”だけではなかなか記憶に留まりにくいのかもかもしれません。
- * ことばと合わせて覚えることで、記憶の手がかりを増やすことができるかもしれません。



お日さまの
したで
生まれた
お星さま♪

間違いさがしクイズ

【練習時から間違いの多いときに】

- * 大まかな形は捉えられていても、“自分がどこを間違っているのか”に気が付きにくいのかもかもしれません。
- * かたちへの注意力を高め、違いに着目するちからをつけていけると良いでしょう。



どこがちがうかな



部首かるた

【パーツの位置関係を間違いやすいときに】

- * 空間関係がうまく捉えきれずに困っているのかもしれません。
- * 遊びながら色々な文字を作ってみることで、部首のはたらきに気づいたりグループでまとめて覚えたりすることにも役立ちます。



回数を減らしてみる

【書くことに抵抗が強いときに】

- * 書字への抵抗が大きいお子さんには、鉛筆を使わない練習を行ってみるのもいかがでしょうか。
- * 書き取りの回数をこなすよりも、丁寧さを重視する、書きは最後の一回のみにするなど、書きへの抵抗感を高めないことも大切です。

指なぞり（指でなぞって練習する）、なぞり消し（ホワイトボードを使って、書かれた文字を指でなぞりながら消してみる）、声を出しながら練習する、辞書を引く、漢字クイズを解いてみる
などなど・・・

他にもこんなポイントに

気を付けられるかもしれません

◎教材の取り組みやすさ

- ・大きさ、字体、配色、レイアウト等の取り組みやすさ・読みやすさ
- ・ドリルとノートの配置（目的の文字を探すのが大変になっていないか）
- ・適した教具（鉛筆の濃さ・太さ、下敷きの使用…） など・・・

◎ICTの活用

- * 最近では、一人一人の状態に合わせた教材として、デジタル教材、タブレット端末、電子黒板等も取り入れられています。これからは、こうしたことを積極的に使われることが期待されます。

ぽけっと

「ほかにいい方法はないかなあ？」と考えること

皆さんは電話番号をおぼえるとき、どのようにしているでしょうか？今は、番号登録といった便利な機能があるので、その必要もないでしょうが、ちょっと考えてみてください。

誰もが全部丸暗記できればいいのですが、「暗記は苦手だ」という方もいることでしょう。そんなときは、語呂合わせをする、数字の並び方の規則性（同じ数字が2つあるなど）を考える、読み上げるリズム（数字の区切り方など）を変える、これまでの経験と結びつけるなど、おぼえ方も様々ではないでしょうか。どんな方法であれ、まず『番号がおぼえられればいい』ということですよ。大切なのは、自分に合ったおぼえ方や学び方に気付いて、ゴールにたどり着くことです。

LD「学習障害」（※）という言葉を目にしたことがあるかと思います。英語では、Learning Disabilities と書き、「学習能力が発揮できない」ということになります。ところが最近では、その特性や困り感から「LDの『D』を、Learning Difference（学習の仕方の違い）と言い換えてみてはどうか」と言われることがあります。これは、「一つのやり方でやりにくければ、それにこだわらず違うやり方に変えてみれば？」ということに他なりません。

みんなと同じにやるのが大事なのではなく、みんなと同じことが学べればいいはずです。そこを見失わないことが、一番大切なことではないかと思うのです。

「おぼえる」ということについて、もう少しお話をすると、実生活でのそれは「忘れないようにする」という側面だけでなく、「思い出しやすくする」さらに「忘れたときにどうすればいいのか」といった側面からも考えることができると思います。結局『私たちが、どれだけ柔軟な発想をもって子どもたちを見つめ、支援できるのか』ということになるのではないかと思います。

ここで、アメリカの教育者であるドロシー・ロー・ノルトさんの言葉を思い出します。

“人は、違っているからつらいのではなく、違いを認められないからつらいのである”

当たり前のことなのですが、「私たちは一人として同じではない」ということを改めて肝に銘じて、数多くの『ものさし』を持って、子どもたちとかかわってあげたいと思っています。これからも、一緒に“応援”していきましょう！



（※）LD「学習障害」：最新のDSM-5という米国精神医学会の疾病分類では、SLD(Specific Learning Disorder)と表記されています。よく使われる文部科学省の定義では、「基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指す…」というものです。



イラスト：WANPUG

巡回相談では、特別な支援が必要と思われるお子さんについて、先生方と支援の方向性を考えています（障害の判定をするものではありません）。お申し込みは管理職または特別支援教育コーディネーターから電話でお願いします。詳細については年度当初の学校訪問の際にお渡しした資料をご覧ください。

TEL 664-1615 または PHS[Kキョウイクセンタートクベツシエン2]